小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

１９９７年度

１９９８年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

1．本書は、平成９年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。また、平成４年に実施した丸山古墳の調査概要も掲載した。

2．埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長　古城久則が担当し、生涯学習課長　河畑　淳が総括した。

3．本書に収録の調査は、小杉町教育委員会の原田義範・稲垣尚美が行なった。

4．調査の実施に当たり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力をいただいた。記して謝意を表したい。（敬称略五十音順）

射水建設興業㈱・㈱シーエフ・城西運輸機工㈱・㈱大成・㈱立山興産・富山県高岡土木事務所・富山県高岡農地林務事務所・町都市計画課・山徳不動産開発㈱・ヤマサン食品㈱・蓮王寺

5．調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行ない、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会で保管している。

6．本書の編集・執筆は、原田・稲垣が行なった。

目　　次

1．平成９年度の概要……1
2．分布調査……2
3．試掘調査……3
水上・本開発遺跡（No.１）……4
干田遺跡（No.２）……4
日の宮遺跡（No.７）……5
二の井Ⅰ遺跡（No.６）……5
二の井Ⅱ遺跡（No.13）……5
塚越大沢Ⅱ・黒河尺目遺跡（No.12）……6
黒河尺目遺跡（No.３）……6
黒河尺目遺跡（No.４）……7
白石遺跡（No.10）……7
黒河竹山遺跡（No.11）……7
一ツ山古墳群（No.14）……7
ＨＳ－04遺跡（No.９）……8
ＨＳ－04遺跡（No.８）……8
ＨＳ－04遺跡（No.15）……8
小杉伊勢領遺跡（No.５）……9
4．本調査……9
高寺遺跡［No.１］……10
ＨＳ－04遺跡［No.２］……11
愛宕遺跡［No.３］……11
5．普及・活用……12
6．丸山古墳発掘調査概要……13
1　立地と周辺の遺跡……13
2　調査の経緯と事前調査……14
3　調査の概要……14
4　遺構……15
5　出土遺物……18
6　まとめ……18

※遺跡名右側のNo.は（　）が試掘、［　］が本調査の一覧表の番号を示す。

※表紙写真は、高寺遺跡の調査区

凡　　例

1．本文中の発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は遺物の出土位置を示し、種類は次のとおりである。

Ｔトレンチ　●縄文土器　▲石器・石製品　□弥生土器　▽土師器　△須恵器　■珠洲　⊠中世土師器

○陶磁器　◇鉄滓　⊗近世陶磁器　◎木製品　回近代陶器

1．平成９年度の概要

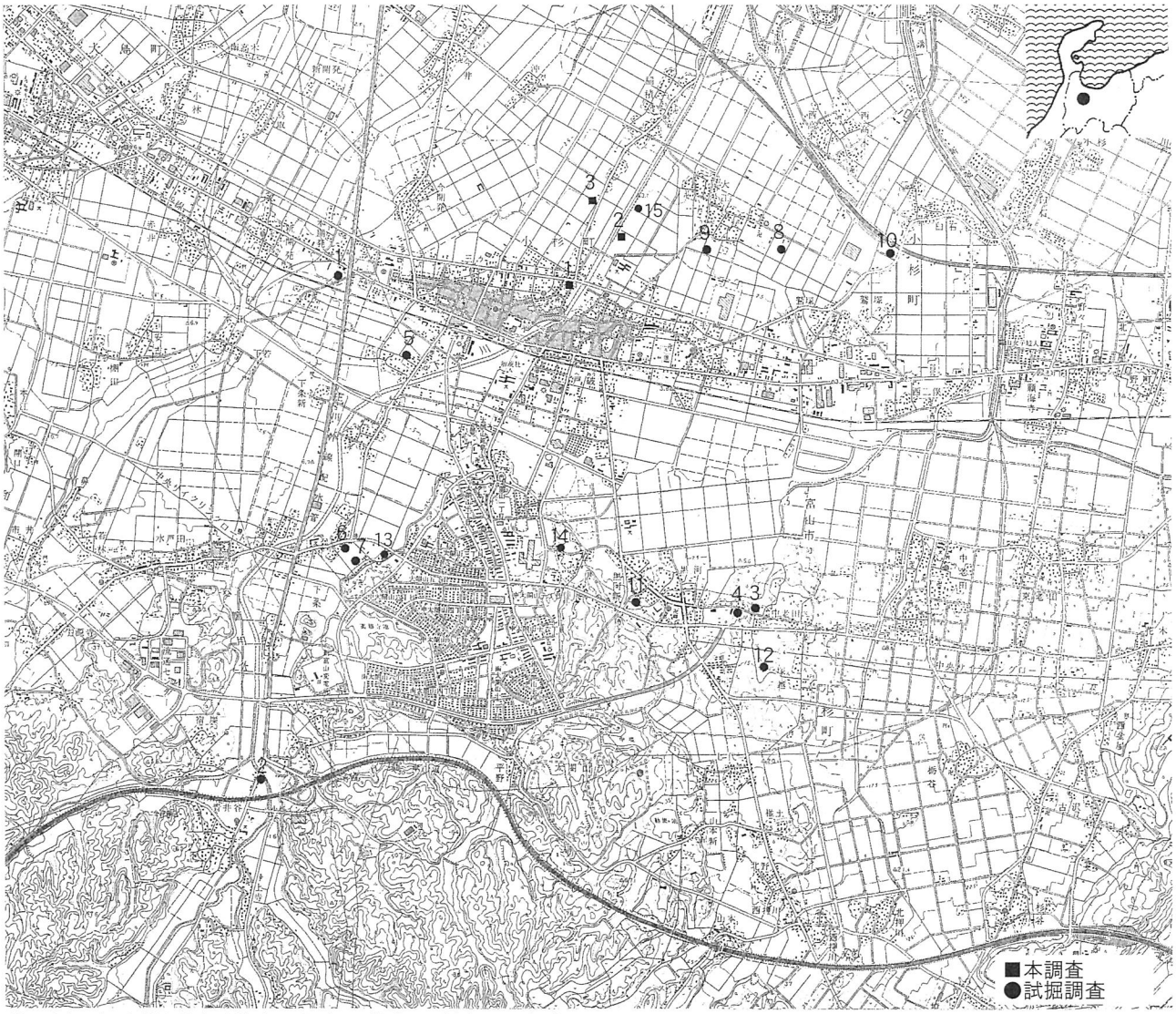
平成９年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、現地確認・分布調査44件、試掘調査15件、本調査３件であった。確認調査・分布調査・試掘調査のいずれも昨年度の件数を上回った。

分布調査は、大規模開発に伴う調査がなかったため、対象面積が約8,000㎡減ったものの、件数では1.4倍に増加した。これは遺跡の取り扱いに対する認識の高まりによるものと考えられる。

試掘調査は、大規模な宅地造成計画が２件あったために、昨年の約5.5倍の対象面積で調査を行なった。調査日数は延べ58日を費やしており、これは約３ケ月の稼働日数に当たる。本町は、古沢・黒河バイパスや中老田・高岡線の部分開通により、沿線には店舗の出店や宅地造成があいつぎ、個人住宅建設の件数も伸びている。このような状況から、今後もこれら開発に伴う調査の増加が予想される。

調査・整理体制は、町の調査員２名ですべてを行なっている。４～12月の間に、３箇所で大規模な本調査と大型宅地造成に伴う試掘調査が２件あった。これらの大型事業と調整を図りながら確認・分布・試掘調査に対応した。このように現地調査優先の状況が続くなか、未報告分の報告書作成に取り組んでいる。

今後急増が予想される開発に対し、調査・整理体制の充実を図るとともに、開発事業と遺跡の保護対応など、調整能力の向上が急務となっている。



第１図　調査位置図（数字は調査一覧表の番号を示す。）

2．分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地域及び未踏査地域で行なわれる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議を行ない事前に現地を踏査し、遺物の散布状況等を確認する分布調査を行なっている。本年度は44件すべてが民間事業に伴うもので、昨年の約1.5倍の件数である。

周知の埋蔵文化財包蔵地は小杉町全図（１万分の１）に記載され、小杉町教育委員会の窓口に備えつけられており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No.	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	採集遺物	開発への対応
1	西高木1109-2	資材置場建設	H９.４.14	1,318㎡	未踏査地	標高0.8mの荒蕪地		支障なし
2	黒河字前田1723外３筆	農家住宅建設	H９.４.14	489㎡	黒河遺跡内	標高8mの既存宅地		転用済み
3	黒河新字土代尻1436-1外　２筆	個人住宅建設	H９.４.14	489㎡	黒河尺目遺跡隣接	標高17mの畑地		支障なし
4	下条1480-1外４筆 三ケ1875外３筆	パチンコ店建設	H９.４.14	7,005㎡	未踏査地	標高5.7mの水田		支障なし
5	三ケ2456-2外　３筆	店舗建設	H９.４.14	1,938㎡	未踏査地	標高5mの水田		支障なし
6	戸破字加茂1730-18	駐車場建設	H９.５.20	244㎡	未踏査地	標高5mの荒蕪地		支障なし
7	黒河新字表野132-1	個人住宅建設	H９.６.16	200㎡	表野遺跡隣接	標高15.3mの畑地		支障なし
8	黒河新字表野131-1	個人住宅建設	H９.６.16	191㎡	表野遺跡隣接	標高15.3mの畑地		支障なし
9	平野159外　１筆	資材置場建設	H９.６.16	2,478㎡	天池Ｂ遺跡隣接	標高20.8mの水田		支障なし
10	三ケ1964-1外　２筆	資材置場建設	H９.６.16	673㎡	未踏査地	標高5.2mの水田		転用済み
11	黒河高山4727-11	無線基地局建設	H９.６.26	154.7㎡	高山遺跡隣接	標高30mの山林		支障なし
12	三ケ1286-1外　１筆	住宅敷地の拡張及び駐車場建設	H９.７.30	327㎡	未踏査地	標高4.5mの畑地		転用済み
13	戸破字神川3905-1	店舗兼住宅用駐車場建設	H９.７.30	39㎡	小杉焼窯跡隣接	標高5mの荒蕪地		支障なし
14	下条字囲山86-4	宅地造成	H９.７.30 H９.８.７	6,700㎡	一部囲山遺跡内	標高10～15mの畑地、荒蕪地 雑木林、道路、宅地	弥生土器片１点	試掘等による確認調査必要
15	黒河3827-1	住宅用地拡張	H９.７.30	33㎡	黒河遺跡隣接	標高8mの畑地（宅地）		転用済み
16	黒河字前田672-1外１筆	住宅用地拡張	H９.８.６	126㎡	黒河遺跡内	標高8mの既存宅地		転用済み
17	中老田字加茂5593-1	駐車場拡張	H９.８.19	7.90㎡	塚越大沢Ⅱ遺跡隣接	標高16mの畑地		支障なし
18	戸破3441	宅地造成	H９.９.３	872㎡	未踏査地	標高3.5mの転作田	弥生土器、須恵器 中・近世陶器、磁器	工事の際は調査員立会必要
19	下条101-1	事務所建設	H９.９.16	307㎡	未踏査地	標高8mの荒地		支障なし
20	白石311-1	事務所建設	H９.９.16	617㎡	未踏査地	標高2mの荒地		転用済み
21	三ケ2469-1外　１筆	店舗建設	H９.９.17	1,896.61㎡	未踏査地	標高4.8mの水田	弥生土器２点、越中瀬戸１点	支障なし
22	下条1701	駐車場建設	H９.９.19	1,109㎡	未踏査地	標高6mの水田		支障なし
23	黒河608-1	個人住宅建設	H９.９.24 H10.１.12	385㎡	未踏査地	標高6mの畑地	土師器、須恵器（盛土から表採）	支障なし
24	黒河573-3	個人住宅建設	H９.10.14	823㎡	黒河新Ⅰ遺跡隣接	標高5.7mの水田		支障なし
25	戸破字後宝1227外９筆	宅地造成	H９.11.４	2,343㎡	若葉町遺跡隣接	標高4.5mの水田		支障なし
26	黒河新字表野138-1外６筆	宅地造成	H９.11.４	677.44㎡	表野遺跡隣接	標高13mの果樹園		支障なし
27	白石581-1外　５筆	資材置場建設	H９.11.26	3,456㎡	未踏査地	標高1.8mの水田	中・近世陶器	支障なし
28	青井谷841-1	作業所建設	H９.11.26	622㎡	三野遺跡隣接	標高1.8mの水田		支障なし
29	稲積125-2	個人住宅建設	H９.11.26	495㎡	未踏査地	標高1.5mの水田		支障なし
30	大江1157-1	車輌置場建設	H９.11.26	636㎡	未踏査地	標高1.4mの水田		支障なし
31	下条1867-1外　４筆	資材置場建設	H９.12.12	3,457㎡	下条新遺跡隣接	標高6.7mの水田及び荒地		支障なし
32	黒河836-4外　１筆	個人住宅建設	H９.12.15	164㎡	東山Ⅱ遺跡隣接	標高26mの畑地	土師器、中・近世陶器 （盛土中に混入）	支障なし
33	下条1212-1	駐車場建設	H９.12.25	829㎡	未踏査地	標高9.5mの水田		支障なし
34	戸破字神田4422-1	農家分家住宅建設	H10.１.16	499㎡	ＨＳ－０４遺跡内	標高2.4mの水田	弥生土器、須恵器、土師器	試掘調査必要
35	青井谷字西俣4556-4	農家分家住宅建設	H10.１.16 H10.３.３	257㎡	未踏査地	標高34mの畑地		支障なし
36	入会地字水蔵場地内	（開発計画）	H10.１.16	約2,000㎡	上野南遺跡群内	標高64.1mの山林		支障なし
37	野手73	資材置場建設	H10.１.16	1,105㎡	未踏査地	標高22mの水田		支障なし
38	戸破字若宮3438外40筆	宅地造成	H10.２.13 ～２.27	31,000㎡	未踏査地	標高3.6mの水田	弥生土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、近世陶器、磁器	確認調査必要
39	青井谷字鳥越5043-4外　１筆	農業用肥料倉庫	H10.３.３	79.2㎡	未踏査地	標高19.2mの谷間の水田		盛土済み
40	山本新56-1	個人住宅建設	H10.３.３	500㎡	未踏査地	標高37.5mの畑地		支障なし
41	青井谷字鳥越5013外４筆	販売用資材置場	H10.３.３	2,253㎡	未踏査地	標高19.2mの山林		支障なし
42	戸破字神田4148	個人住宅建設	H10.３.17	892㎡	未踏査地	標高3.0mの水田		支障なし
43	戸破字神田4149	個人住宅建設	H10.３.17	495㎡	未踏査地	標高3.0mの水田		支障なし
44	浄土寺字八田1562-1	個人住宅建設	H10.３.17	337㎡	未踏査地	標高20mの既存宅地		転用済み
計44件　延べ27日間　対象面積　約80,518.85㎡								

第１表　現地確認・分布調査一覧

3．試掘調査

平成９年度に町教育委員会が実施した試掘調査は、国道改良工事・農道新設改良事業２件、民間事業13件の計15件であった。調査結果は、本調査が必要となったもの１件、申請どおりの開発であれば支障のないものが３件、支障のないものが11件であった。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	水上・本開発 (381026)	三ケ1535-1外　27筆	宅地造成	Ｈ９．４．21～５．２ （延べ８日間）	21,020㎡	900㎡	散布地	溝、柱穴	土師器、須恵器、越中瀬戸 珠洲、近世陶磁器、石器	支障なし
2	干　田 (381199)	青井谷干田1496-7外 １筆	一般国道472号線交通安全施設交差点改良工事	Ｈ９．５．７ （延べ１日間）	426.39㎡	18㎡	集落			支障なし
3	黒河尺目 (381044)	黒河字前田1-2外 ８筆	資材置場造成	Ｈ９．５．17 （延べ１日間）	1,789㎡	58㎡	集落	川跡１条	縄文土器、土師器、須恵器 中世陶器	支障なし
4	黒河尺目 (381044)	中老田新字星丸641	農機具格納庫建設	Ｈ９．５．17 （延べ１日間）	204㎡	15.6㎡	集落	溝３条 土坑１基 柱穴状ピット	土師器、須恵器、鉄滓	支障なし
5	小杉伊勢領 (381027)	三ケ2276-1	住宅建築	Ｈ９．７．８ （延べ１日間）	306㎡	32㎡	散布地		弥生土器、須恵器	支障なし
6	二の井Ⅰ (381086)	下条675-3	地区公民館建設	Ｈ９．７．19 （延べ１日間）	445㎡	30㎡	散布地		弥生土器	支障なし
7	日の宮 (381088)	下条689-2	住宅建築	Ｈ９．９．29 （延べ１日間）	498㎡	40.5㎡	散布地		弥生土器、須恵器	支障なし
8	ＨＳ－０４ (381004)	大江86-1外　２筆	駐車場及び資材置場建設	Ｈ９．10.25 （延べ１日間）	1,159.26㎡	98.45㎡	散布地	溝	土師器、珠洲、近世陶磁器	支障なし
9	ＨＳ－０４ (381004)	大江502-1	資材置場建設	Ｈ９．10.25 （延べ１日間）	1,645㎡	163㎡	散布地	溝	土師器、漆器、珠洲、越中瀬戸 近世陶磁器	支障なし
10	白　石 (381006)	白石808	駐車場建設	Ｈ９．12.16 （延べ１日間）	813㎡	111㎡	散布地 集落	用排水路	弥生土器、近世陶器 近代陶磁器	支障なし
11	黒河竹山 (381065)	黒河字竹山3562外 29筆	駐車場建設	Ｈ９．12.17・18 （延べ２日間）	3,135㎡	292㎡	散布地	溝、土坑 柱穴状ピット	須恵器	支障なし
12	塚越大沢Ⅱ (381077) 黒河尺目 (381044)	塚越字大沢700外 36筆	宅地造成	Ｈ９．11．７～12.22 （延べ32日間）	115,301.29㎡	5,974㎡	散布地 集落		縄文土器、須恵器	支障なし
13	二の井Ⅱ (381087)	下条715	住宅建築	H10．３．13 （延べ１日間）	361㎡	27㎡	散布地	溝２条 柱穴３基	弥生土器、珠洲、越中瀬戸	本調査必要
14	一ツ山古墳群 (381039)	黒河5088	住宅建築	H10．３．16～３．18 （延べ３日間）	985㎡	32㎡	墓・古墳			支障なし
15	ＨＳ－０４ (381004)	戸破字神田4610-1外	農道新設改良工事	H10．３．24～３．26 （延べ３日間）	1,900㎡	145㎡	散布地		弥生土器、土師器、珠洲 中世土師器、近世陶磁器	支障なし
計	12遺跡	延べ 58 日間　対象面積　143,969.55㎡　発掘面積　7,936.55㎡								

第２表　試掘調査実績一覧　　※遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

水上・本開発遺跡（No.１）

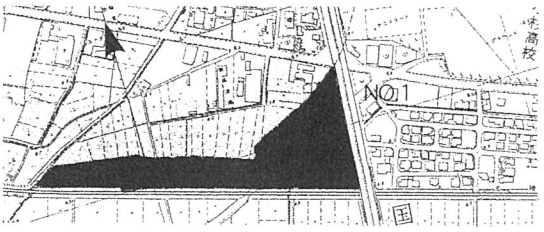
遺跡は小杉町の西部に位置し、大島町東部に広がる。この辺り一帯は古放生津潟が深く入り込んでいたとされ、湿田が存在したところである。

対象地は現在もほ場整備が行なわれていないため、車輌の搬入路がなく農耕車は水田から水田への移動を余儀なくされている。これらの小さな水田の間を縫うように素掘りの水路が走っている。

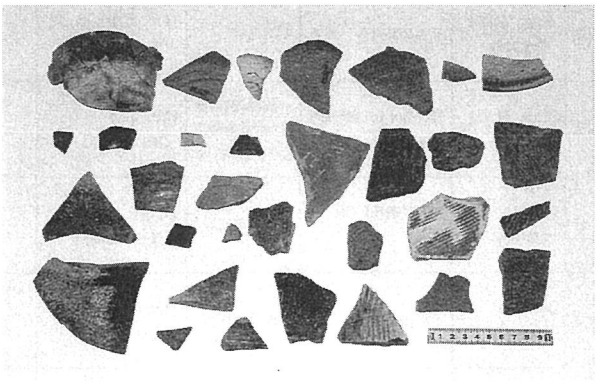
開発計画は、小杉町・大島町の両町にまたがる大規模な宅地造成で、町境が入り組んでいたため両町で調査後、調整を図り当遺跡に対する以下の共通の見解を導いた。

検出された遺構は、柱穴の可能性のあるもの１基以外はすべて溝で、それらの多くは近世初頭の自然流路や、農業用排水路の可能性が高い。

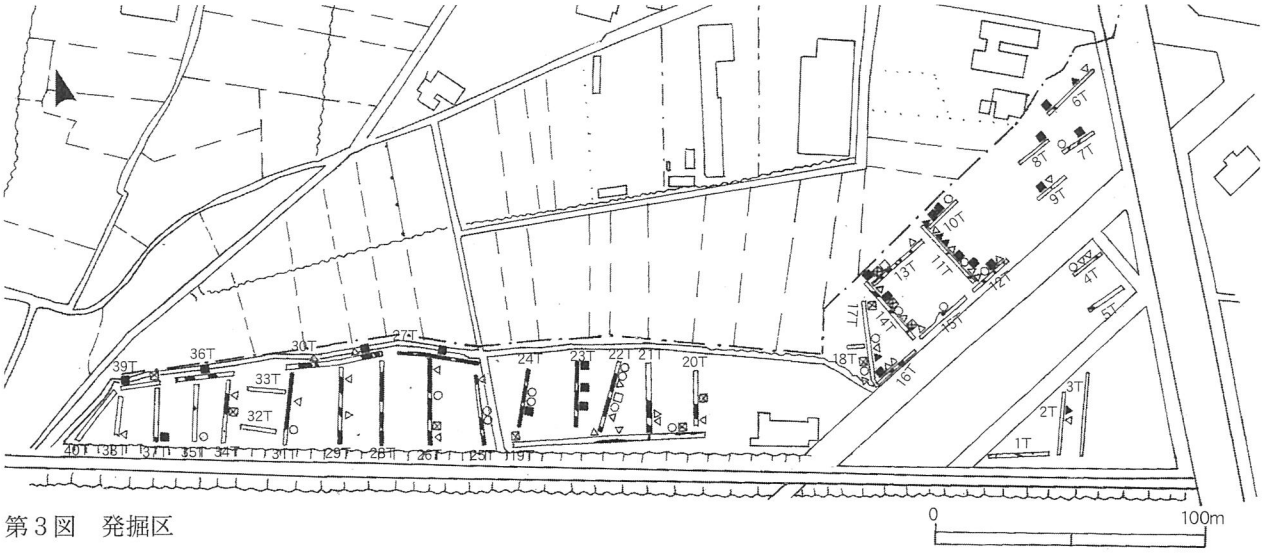
出土遺物は、古墳時代の土師器、古代の須恵器、中世の土師器・珠洲、近世の越中瀬戸・伊万里などである。（稲垣）



第２図　調査位置（1：10,000）



出土遺物



第３図　発掘区

干田遺跡（No.２）

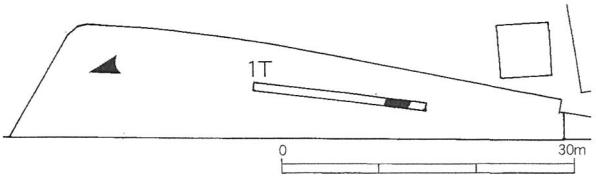
遺跡は下条川左岸の標高約12mに位置する。

対象地は住宅地であったが、国道472号線交差点改良工事に先立って移転した跡地である。国道は下条川の開析によって形成された南北に細長い谷の中央を通っている。試掘トレンチはほぼ南北の国道に沿うように設けた。

遺構は東西方向に川跡が確認できた。おそらく下条川の旧河道に、土砂が推積し埋没したものと考えられる。

出土遺物はなかった。（稲垣）

第４図　調査位置（1：10,000）

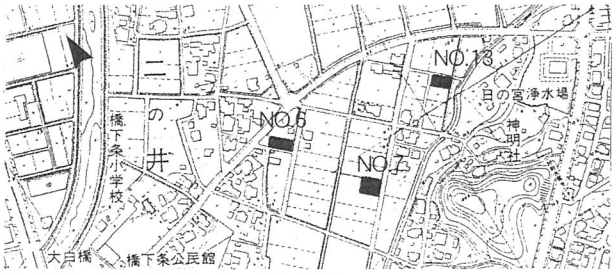


第５図　発掘区

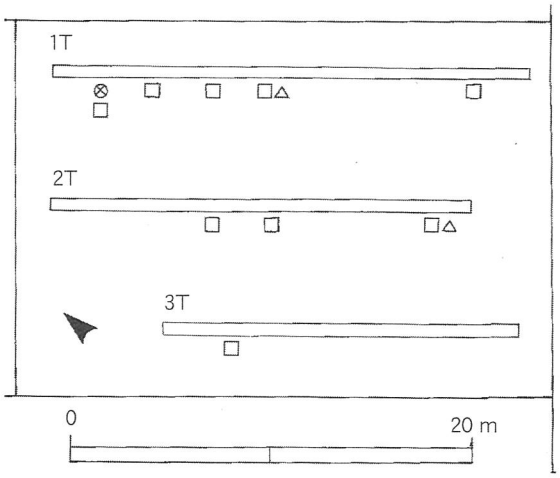
日の宮遺跡（No.７）

遺跡は射水丘陵の谷間に広がる標高約8.5mの平野部に立地し、丘陵の縁辺部に所在している。

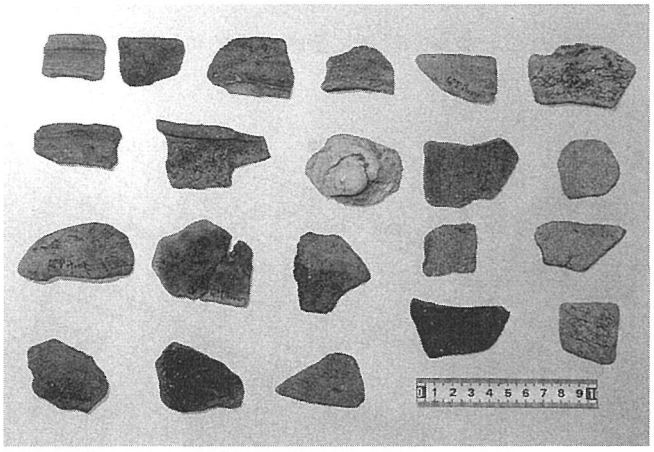
調査地は遺跡の北東端に位置する水田である。遺構の検出は表土下約55cmの青灰色土上面で行ない、その上層の暗黒褐色土から弥生土器や須恵器が出土している。（原田）



第６図　調査位置（1：10,000）



第７図　発掘区

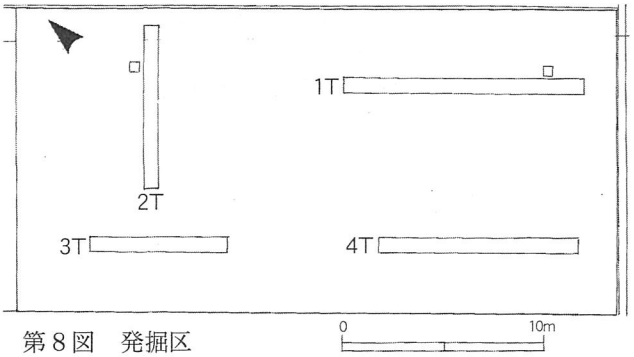

出土遺物

二の井Ⅰ遺跡（No.６）

遺跡は日の宮遺跡西端に隣接し、標高約８mの下条川右岸の平野に立地する。

調査は表土から35～60cmほど掘り下げ、灰褐色粘質土（地山）で遺構の検出を行なったが、住居跡などは確認できなかった。

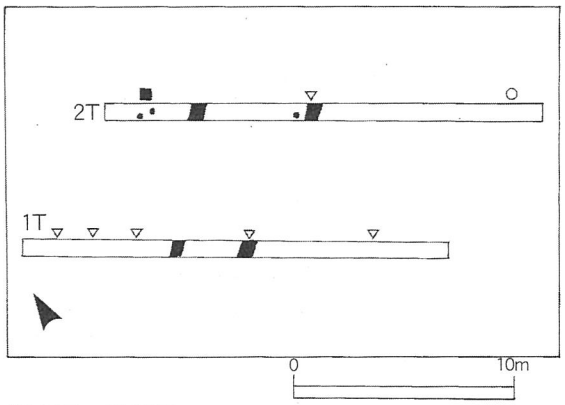
遺物は地山直上から弥生土器が数点出土した。（原田）



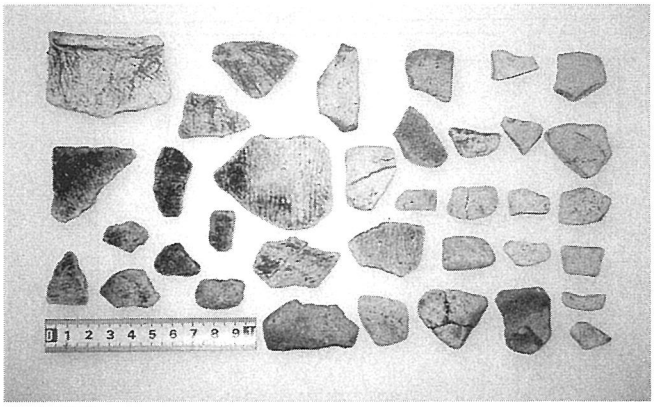
第８図　発掘区

二の井Ⅱ遺跡（No.13）

対象地に２本のトレンチを設け、２条の溝と３基の柱穴を確認した。また、遺構検出面を２面確認したことから二時期ある可能性も考えられる。遺物は弥生時代後期の土器を主体とし、中世の遺物もわずかに含まれる。以上のことから、計画地は弥生時代後期を中心とする遺跡内に位置しており、本調査が必要である。（稲垣）



第９図　発掘区


出土遺物

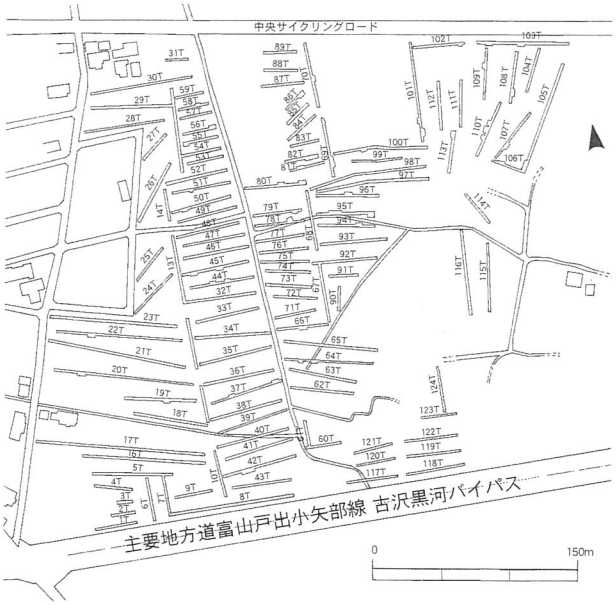
塚越大沢Ⅱ・黒河尺目遺跡（No.12）

調査対象地は中央サイクリングロードと、主要地方道戸出・小矢部線古沢黒河バイパスの間に位置する。

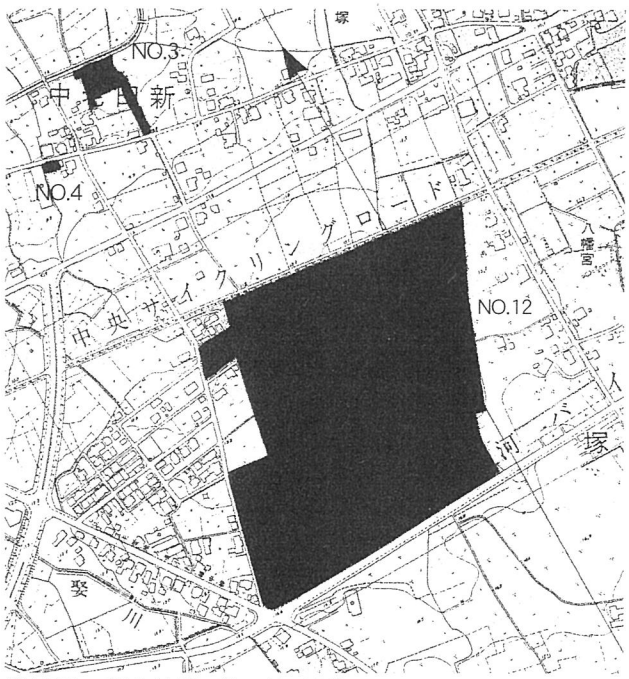
遺構は土取りの痕跡が認められる２箇所と、柱穴の可能性があるものが１箇所検出された。

遺物はトレンチ内から縄文土器１点、須恵器数点を検出した。対象地の南東部分で縄文土器・打製石斧・鉄滓を多く表採したことから、付近に遺構がある可能性が高い。

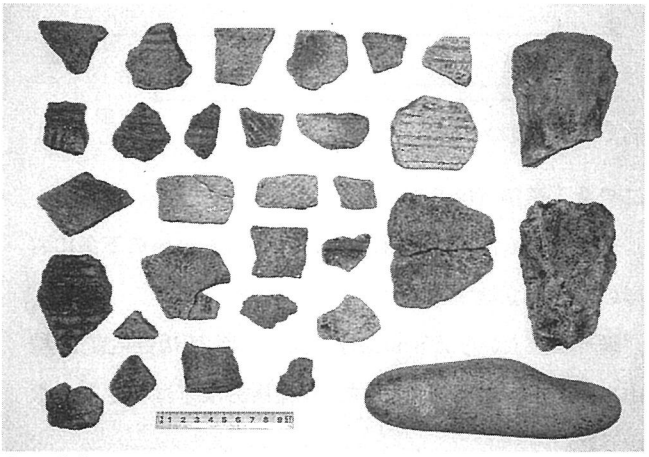
（稲垣）



第11図　発掘区



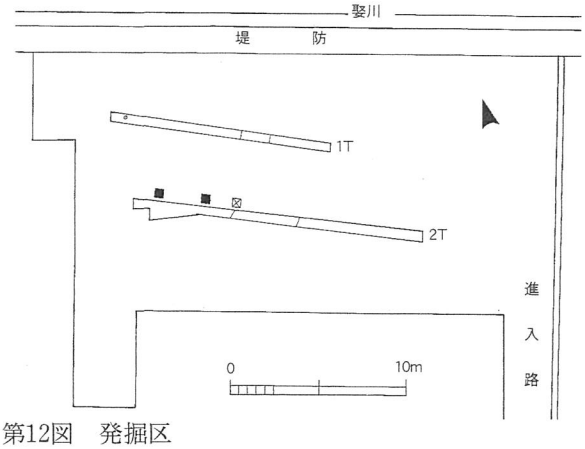
第10図　調査位置（1：10,000）



出土遺物

黒河尺目遺跡（No.３）　遺跡は標高８ｍ前後の射水丘陵裾部に立地し、北側には水田地帯が広がる。昭和61・62年と平成３年に行なわれた発掘調査では、奈良時代や中世の遺物とともに掘立柱建物12棟が発見されている。

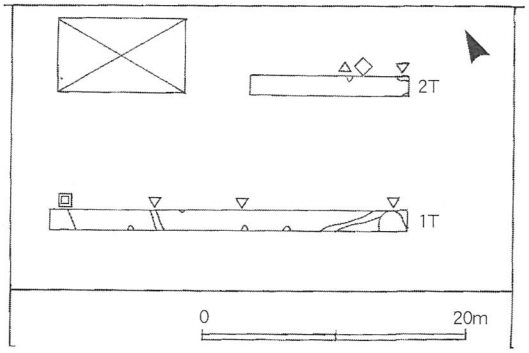
調査対象地は、先の調査地から北東に300ｍほど向かった婦川右岸に位置する畑地で、一部が近年まで部落のため池であった。調査時には一部がすでに盛り土や表土掘削が行なわれ、須恵器など遺物が散布していた。試掘トレンチでは旧ため池からの水路が１条確認された。（原田）



第12図　発掘区

出土遺物

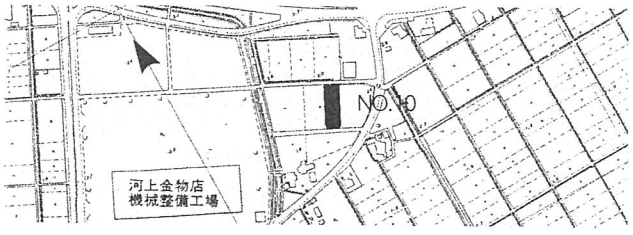
黒河尺目遺跡（No.４）　調査地は標高9.7ｍの緩丘陵部に位置する。調査は地表面から約50cmほど下にある淡黄褐色土層上面で遺構の確認を行なった。検出した土坑や柱穴状ピットからは土師器・鉄滓が出土している。（原田）



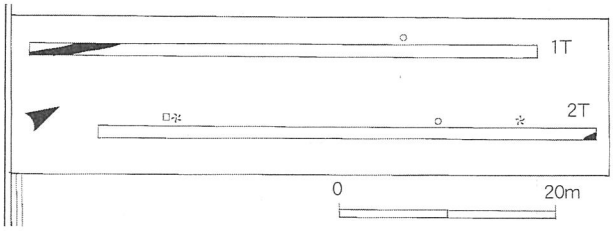
第13図　発掘区

出土遺物

白石遺跡（No.10）　遺跡は下条川と新堀川に挟まれた、標高約2.0ｍの射水平野に立地する。調査地から南西250ｍの箇所で、平成３～４年に約4,400㎡の発掘調査が行なわれ、古墳時代初め頃の溝と中世館跡の遺構が発見されている。調査は表土下約５～25cmの暗黄褐色土で遺構の確認を行ない、幅約１ｍの旧用排水路を確認した。（原田）

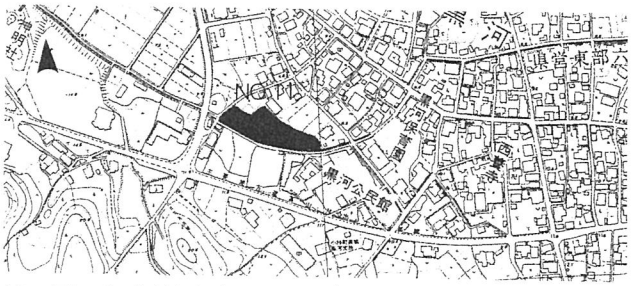


第14図　調査位置（1：10,000）

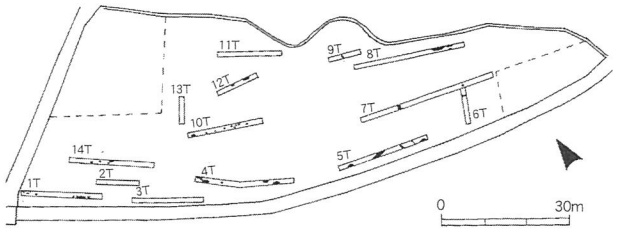


第15図　発掘区

黒河竹山遺跡（No.11）　遺跡は射水丘陵の北東端に位置し、幅約200ｍほどの浅い谷間に立地している。調査地の周辺では今までに数回の試掘調査が行なわれ、奈良～平安時代にかけての土器が出土している。また、製鉄に関連する遺物も確認されたため、丘陵中で多く発見された製鉄遺跡との関連が予想される地域である。今回の調査では、時期は明確でないが土坑・溝・柱穴状ピットが多数確認された。遺物は黄灰色土の遺構検出面で須恵器１点が出土した。（原田）



第16図　調査位置（1：10,000）



第17図　発掘区

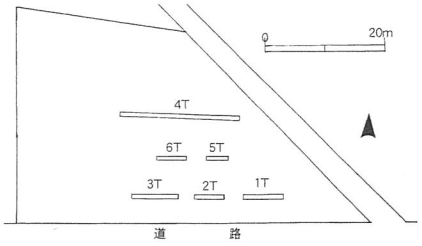
一ツ山古墳群（No.14）

対象地は一ツ山古墳群の２号墳から南へ約120ｍの地点に位置する。

今回の調査では、地形及びトレンチの観察からは古墳の存在を確認できなかった。

（稲垣）

第18図　調査位置（1：10,000）



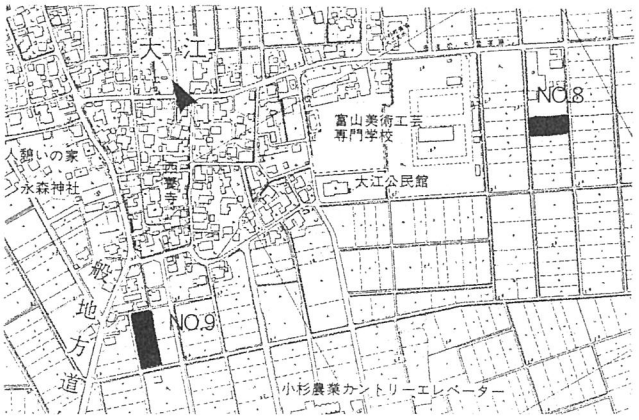
第19図　発掘区

ＨＳ－０４遺跡（No.９）

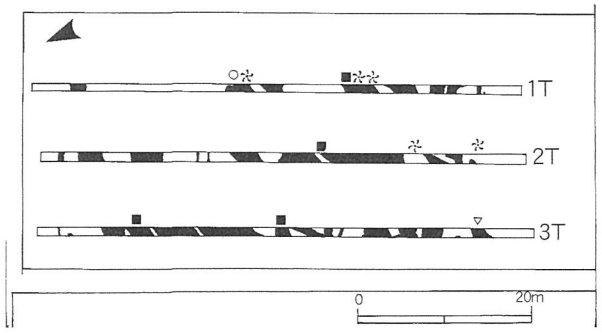
対象地は下条川右岸の標高2.5mの平野に位置する。

遺構は東西方向に流れる溝を数条確認した。溝の幅は0.4～6.0m、深さは0.1～0.5mで、複数の溝がところどころで１条になっているようである。溝の覆土はすべて単層で同一の土層である。調査区の南側を平成８年に試掘調査した時も同じような溝が確認されたことから、調査区の西を流れる下条川へ流れ込む小川、あるいは下条川そのものが高低差がないために流れよどみ、このような流路ができたのではないかと考えられる。

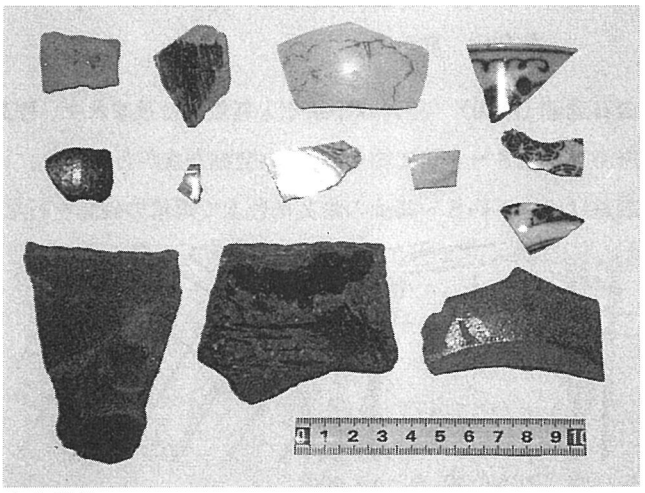
出土遺物は、土師器・珠洲・越中瀬戸・漆器（中世）で、耕作土及び溝の覆土から出土した。（稲垣）



第20図　調査位置（1：10,000）



第21図　発掘区



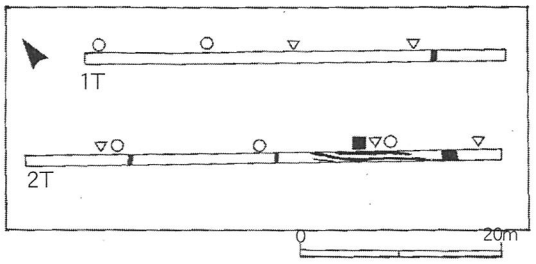
出土遺物

ＨＳ－０４遺跡（No.８）

調査地は県道松ノ木・鷲塚線の南、標高2.2mの平野に位置する。

耕作土直下の青灰色の地山で溝を数条確認したが、近世の農業用排水路と考えられる。

出土遺物は、土師器・珠洲（中世）、近世陶磁器である。出土層位は地山直上から珠洲が１点出土した以外は、いずれも耕作土中から出土している。（稲垣）

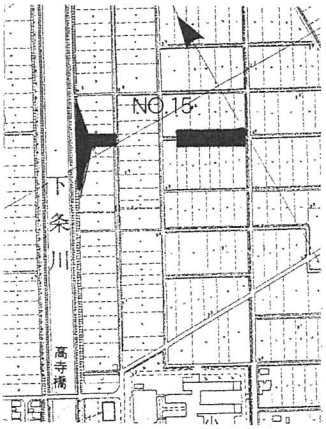


第22図　発掘区

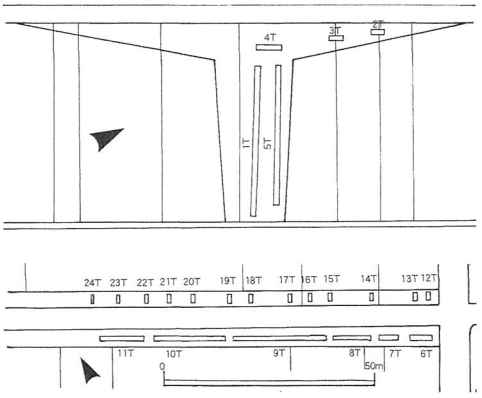
ＨＳ－０４遺跡（No.15）

調査地は下条川右岸の標高２m前後の平野に立地する。近隣の調査で古墳時代初めの集落や中世の集落が確認され、遺跡の実態が明らかになりつつある地域である。

調査は耕作土下30～70cmの淡黄灰色土で遺構の確認を行ない、耕作土の下層から弥生時代・古代・中世・近世の遺物が数点出土した。（原田）



第23図　調査位置（1：10,000）

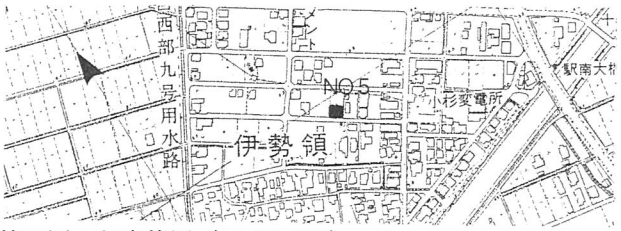


第24図　発掘区

小杉伊勢領遺跡（No.５）

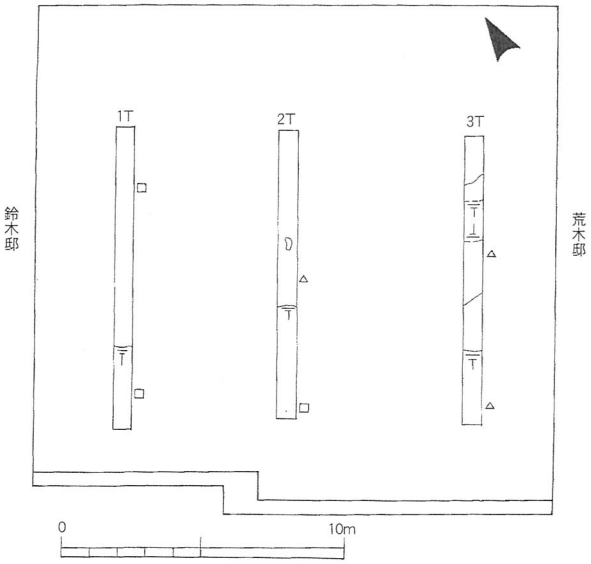
遺跡は下条川左岸の標高約５ｍの微高地上に位置する。周辺では平成２～４年にかけて大規模な宅地造成に先立つ発掘調査が行なわれ、縄文時代中期、弥生時代末から古墳時代初め、古代・中世の遺構、遺物が確認されている。

調査箇所は、平成３年に弥生時代末の大溝が発見された発掘区の西側にあたる。今回の調査では大溝に続く遺構の検出を想定し、表土下30～75cmの淡黄褐色土及び下層の灰茶褐色・赤茶褐色土まで確認したが、検出できなかった。（原田）



第25図　調査位置（1：10,000）

出土遺物



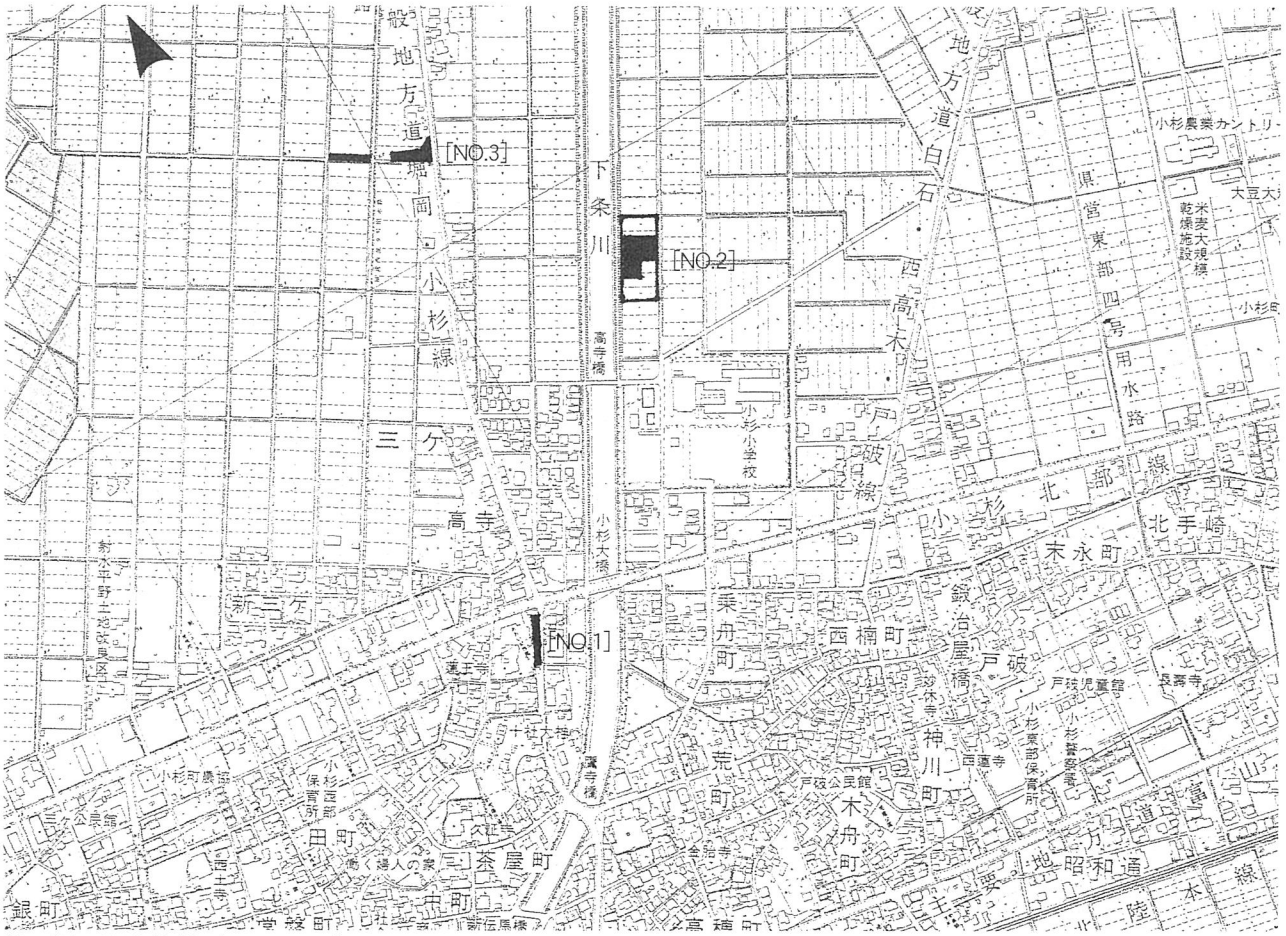
第26図　発掘区

4．本　調　査

平成９年度に町教育委員会が実施した本調査は、県道拡幅事業１件、下条川親水公園建設事業１件、ふるさと農道整備事業が１件である。これらの事業はすべて公共事業である。

No.	遺跡名	所　在　地	原　　因	調査期間	発掘面積	検出遺構	出　土　遺　物
1	高　　寺 (381020)	三ケ字茶ノ木 1597-8外	道路拡幅工事	H9.4.18～ 7.30 (延べ73日間)	651㎡	周溝（弥生～古墳）・溝10条(平安～近世)・近世墓多数・井戸１基（近世）	弥生土器・土師器・須恵器土師皿・近世陶器・磁器・泥人形・骨壺・木製品(早桶・漆椀・卒塔婆・数珠玉・櫛)・石製品（石仏・蓋石・空輪部）
2	ＨＳ－04 (381004)	戸破字神田 4428-1外 10筆	下条川親水公園建設	H9.5.29～ 11.4 (延べ83日間)	1,920㎡	溝・土坑(古墳)柱穴・井戸・溝土坑（中世）	土師器・管玉（古墳時代）・須恵器(古代)・土師器・珠洲(中世)・越中瀬戸（近世）
3	愛　　宕 (381002)	三ケ81-1外	ふるさと農道建設	H9.8.18～ 12.5 (延べ63日間)	1,000㎡	井戸22基(中世～近世)・溝10条（古代～近世）土坑28	弥生土器・土師器・土師皿珠洲・青磁・石製品（火輪部砥石）・木製品（曲物・釣瓶箸・漆椀）・銅製品（鈴）
計	３遺跡	延べ219日間　　発掘面積　　3,571㎡					

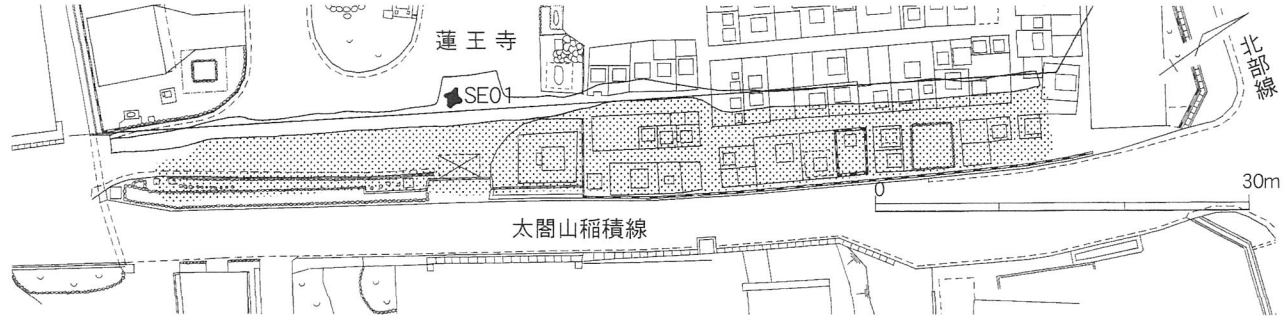
第３表　本調査一覧　　※遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。



第27図　調査位置（1：10,000）

高寺遺跡〔No.１〕

平成８年度の試掘結果を受けて本調査を実施した。遺構は弥生時代や古代の溝・土坑、中世の柵列状遺構、近世の埋葬施設が確認された。（原田）

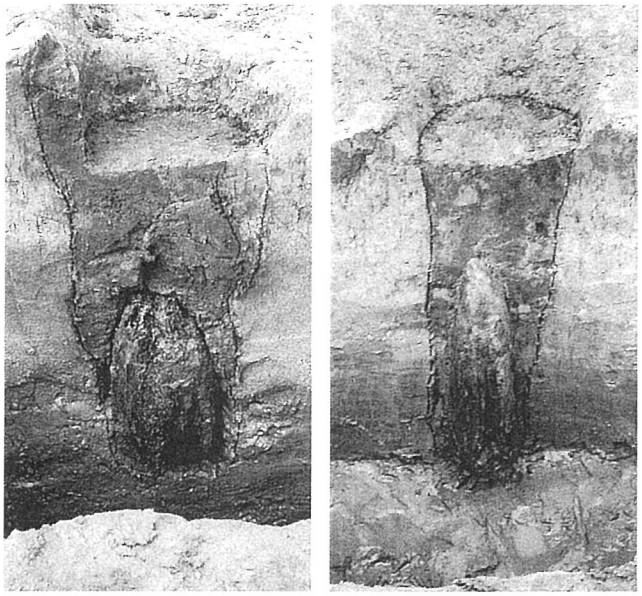


第28図　発掘区

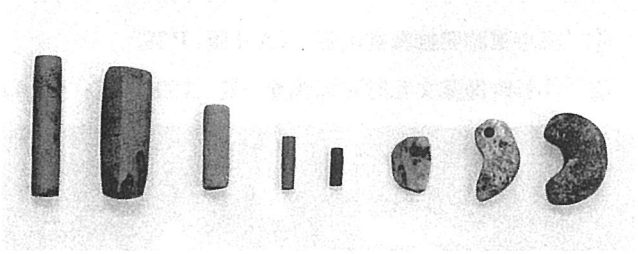
ＨＳ－０４遺跡〔No.２〕

昨年当遺跡の調査は、中央部分を除く北と南側部分に対して行なった。遺構・遺物の中心年代は、古墳時代初頭と中世で、古墳時代初頭の周溝（溝）や井戸・土坑が確認された他、中世の溝・井戸・柱穴が確認された。

調査区を北流する大溝が１条あり、弥生時代末から古墳時代初めの土器の他、勾玉・管玉、古代の須恵器・土師器椀が出土した。弥生時代末から古墳時代初めの土器は、かなり摩滅しているうえ、下層部に大量に含くまれていた。その他、玉の製作過程で出た緑色凝灰岩のチップ・フレイクが多量に含まれていたため、最下層の土を洗浄することにより遺物を採集した。なお、今年度の調査で確認した柱穴のうち８穴で柱根が遺存していた。また、自然科学分析によって調査区は湿り気の多い土地で、トネリコやイヌエンジュ・ハンノキなどの樹木が繁茂し、ハスやヒシなどの水性植物も多く生育していたことやヒョウタン・ウリ・ソバなどが栽培されていたことが明らかになっている。ソバの栽培については、北陸地方で最も古い事例の部類に入ることが明らかとなった。（稲垣）



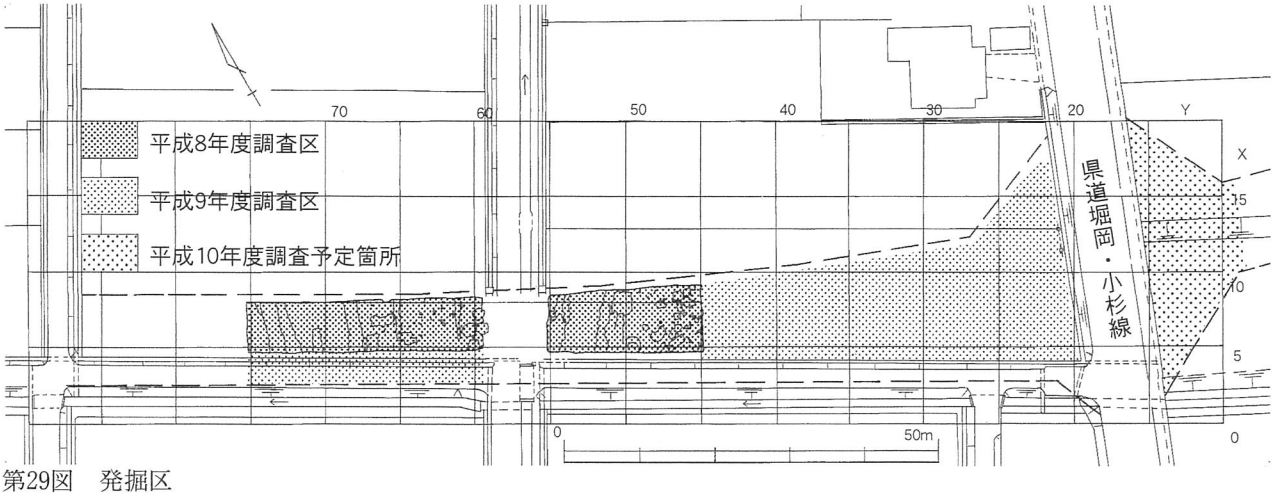
柱穴半断の様子



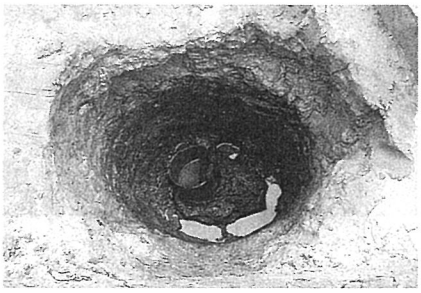
出土遺物

愛宕遺跡〔No.３〕調査は平成８年度から県営ふるさと農道整備事業に先立ち、約1,800㎡の広さを対象に行なっている。

遺構は弥生時代末から古墳時代初めの土坑と中世の集落跡が確認されている。遺物は井戸の中から出土した火箸や釣瓶などをはじめ御鈴・鉄滓・フイゴの羽口なども見られる。調査は平成10年度で終了する予定である。（原田）



第29図　発掘区



5．普及・活用

（1）整理室の見学

今年度の作業は天池Ｃ遺跡の実測・拓本の他、今年度報告書刊行の高寺遺跡の注記・接合・実測・トレース、愛宕遺跡及びＨＳ－０４遺跡（親水公園）の注記作業及び接合作業など、報告書に向けた整理作業を行なってきた。

整理室は平成９年４月１日より、太閤山小学校から旧シルバー人材センターへ移転した。移転後は以前に比べ展示・保管・整理作業に十分なスペースを確保することができた。また、４月当初は新聞や町報で取り上げられたこともあり、個人見学者が増加した。

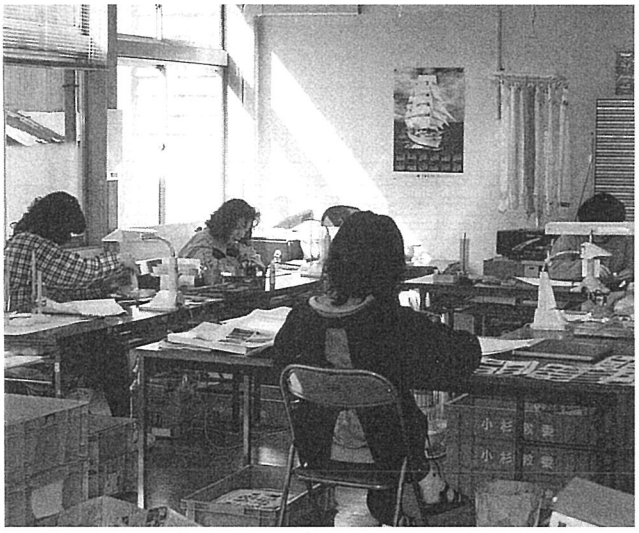
今年度整理室には次の見学があった。５月14日 議会視察(33人)、６月９日 審議委員(５人)、６月16日 射水郡社会科教育研修(30人)、６月25日 教育委員(９人)、６月26日 中太閤山公民館(28人)、大門町教育委員会(26人)、11月４日 町民バス(30人)、３月23日 町新任職員(５名)の他、調査員などの見学者約10名、個人の方の見学者が約50名あった。

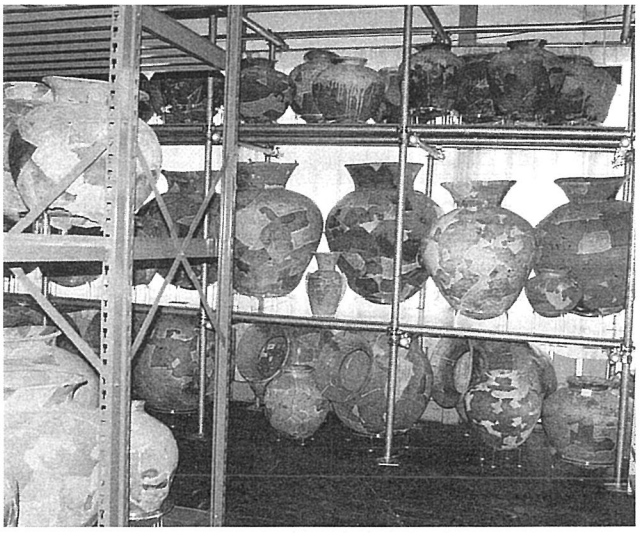
（2）報告書等の刊行

平成９年度事業として、小杉町教育委員会が1998年３月に刊行のものは以下のとおりである。

①「高寺遺跡発掘調査概要」（Ａ４版 Ｐ38）

②「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度」（Ａ４版 Ｐ20）





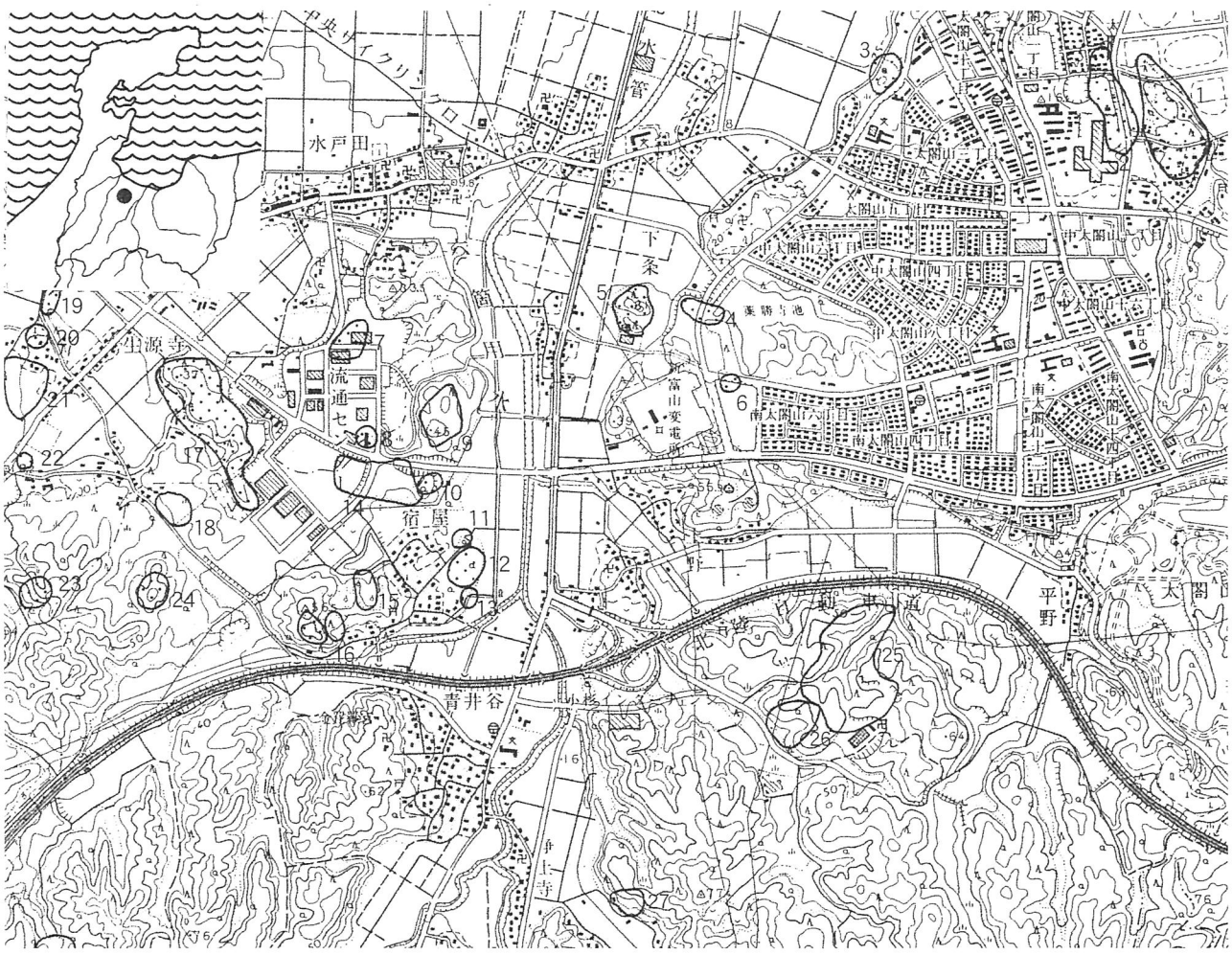
6．丸山古墳発掘調査概要

1　立地と周辺の遺跡

小杉町は県の中央部に位置し東西方向の幅が狭く南北に細長い町域で、町の南側部分には標高100m未満のなだらかな射水丘陵が広がる。丸山古墳はこの射水丘陵上に位置する。射水丘陵は下条川や下条川へ流れ込む小河川の開析により網目のように谷が入り組んでいる。

射水丘陵の中でもこの一帯は、古墳をはじめ多くの遺跡が確認されている。これらの多くは、丸山古墳の北側に位置する小杉流通業務団地や、この団地を東西に通る七美・太閤山・高岡線の建設に先立ち調査が行なわれた。

丸山古墳の近隣では、宿屋古墳群、山王宮古墳群、大塚古墳、五歩一古墳群（前方後方墳）、小杉流通業務団地内№15Ｂ遺跡、変電所西古墳（前方後円墳）など多くの古墳が確認されている。７世紀以降は国指定史跡の小杉丸山遺跡をはじめとする小杉流通業務団地内遺跡群№６・７・18Ａ・15Ａ、天池Ｃ遺跡、水蔵場Ｄ・Ｇ・Ｈ遺跡、赤坂Ｃ遺跡や上野南遺跡、生源寺窯跡など多くの炭焼窯や製鉄炉、須恵器窯の生産遺跡が出現する。このような射水丘陵の特長は、恵まれた地質及び地形的な自然条件だけでなく政治的背景によるものと考えられる。



第１図　地形と周辺の遺跡

１．一ツ山古墳　２．二ツ山古墳　３．囲山遺跡　４．薬勝寺池西古墳群　５．山王古墳群　６．薬勝寺池古墳　７．小杉流団No.３遺跡　８．小杉流団No.17遺跡　９．五歩一古墳群　10．小杉流団No.15Ｂ遺跡　11．小杉流団周辺Ｊ遺跡　12．宿屋古墳群　13．宿屋窯跡　14．小杉流団No.18Ａ遺跡　15．小杉流団No.28遺跡　16．青井谷丸山遺跡　17．小杉丸山遺跡　18．生源寺窯跡　19．生源寺新十三塚古墳　20．大塚古墳　21．生源寺新Ｂ遺跡　22．南郷中学南古墳　23．生源寺南古墳　24．青井谷西古墳　25．天地Ｃ遺跡　26．水蔵場Ｈ遺跡　27．東谷遺跡

2　調査の経緯と事前調査

周知の遺跡である丸山古墳は、1991年６月17日～９月10日（延べ２日間）に行なわれた隣接する青井谷丸山Ⅱ遺跡の土砂採掘に先立つ分布調査によって、方墳２基、礫集積遺構２基から成ることが確認された。

その後、丸山古墳包蔵地上に民間会社の福利厚生施設建設が予定され、1993年11月26日～12月10日（延べ10日間）に測量調査を行ない、翌1994年８月31日～11月14日（延べ44日間）に礫集積遺構の本調査を行なう一方で、地形に合わせた４ｍ間隔の基準杭を設定し古墳の平板による測量を行なった。古墳主体部の調査は1995年４月17日～７月５日（延べ49日間）に行なった。

3　調査の概要

（1）立地と本調査の経過

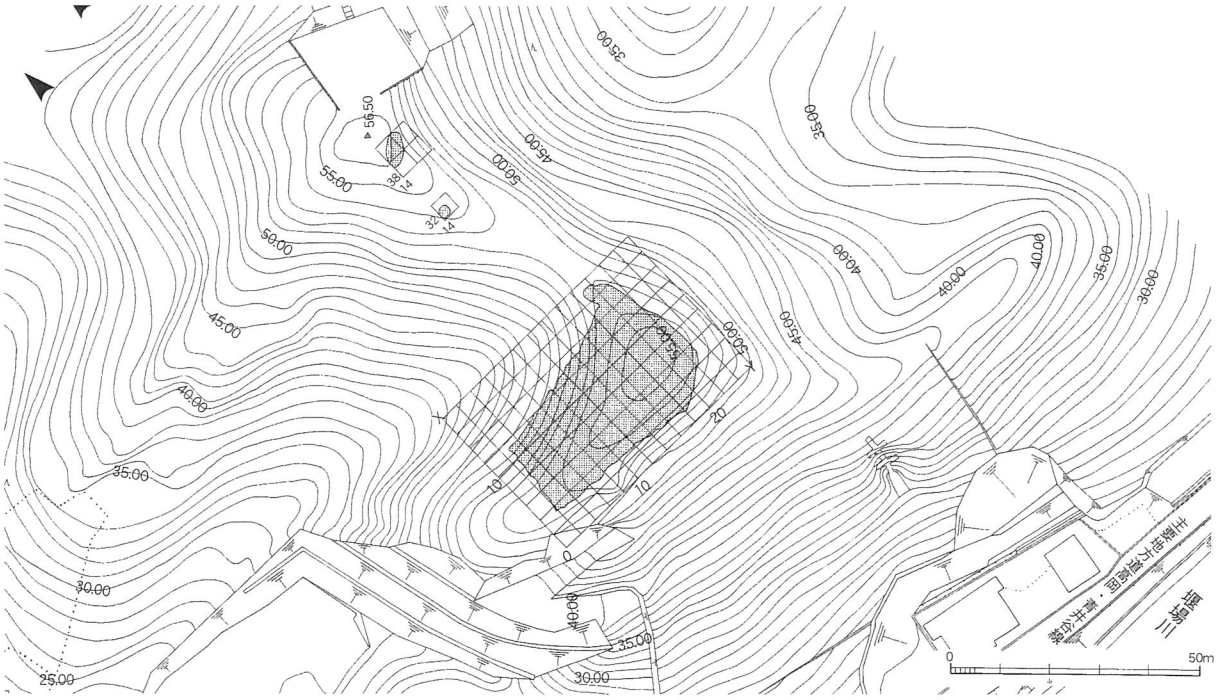
丸山古墳は、下条川左岸の標高54～56ｍの尾根伝いに位置し、丘陵の頂部に立地する。戦中は古墳及び礫集積遺構の数メートル下方まで畑として利用されていたが、戦後は植林されその後は放置された。

平成７年度は、調査区全体に１×１ｍの方眼をかけ25cmごとに等高線を入れ図化したところ、西側の盛り上がりは古墳ではない可能性がでてきた。明らかに古墳である東側の墳丘を１号墳、西側の墳丘を２号墳とした。

調査は１号墳から主体部掘り方を確認し調査を行なった。２号墳については再三精査したが掘り方を確認することができなかった。そこで東西方向に幅約20cmのサブトレンチ１本とそれに直交するサブトレンチ２本を設定し、その断面を観察したが結論が得られず、更にサブトレンチの数を増やし観察しやすいように幅を約30cmに設定した。その結果、西側の墳丘は自然堆積によることが明らかとなった。

（2）基本層序

基本層序は、①層：黒褐色土（7.5ＹＲ３／１）腐葉土や草木の根からなる表土（20cm）。②層：明褐色土（7.5ＹＲ5/6）∅１～２cmの砂礫を含む地山（60cm）。③層：明黄褐色土（10ＹＲ６／８）∅３～10cmの腐礫を主体とする（100cm）。④層：明黄褐色土（2.5ＹＲ６／６）（150cm）。⑤層：灰色土（10ＹＲ５／１）の軟質泥岩層が10数メートルにわたって続いていることを、古墳が位置する尾根の西側部分の露頭で確認した。１号墳の西では②層と③層の間に明黄褐色土（2.5ＹＲ６／６）∅１～10cmの腐礫の間にシルトが入る層がある。



第２図　地形と発掘区

4　遺構

（1）古墳

古墳は南北軸約13.4m、東西軸約11.2m、墳高約2.0mの円墳で、埋葬施設の検出は１基である。墳丘は土盛りされたものではなく、尾根頂部を水平に削り墳丘頂部を造り出している。

周溝は２条巡らされており、周溝１は西へ伸びる尾根を南北に切る。長さ約11m、幅2.1～3.1m、深さ約0.3mで、墳丘の高まりを強調している。周溝２は長さ約10m、幅３m、深さ約20cmの浅い周溝である。周溝１については溝の両端が高く排水溝としての機能はなく、西へ伸びる尾根を切ることにより墳裾を明確にするために造られた周溝だと思われる。周溝を造った時に出た土は、古墳の景観に影響のないところに意識的に廃棄したと考えられる。

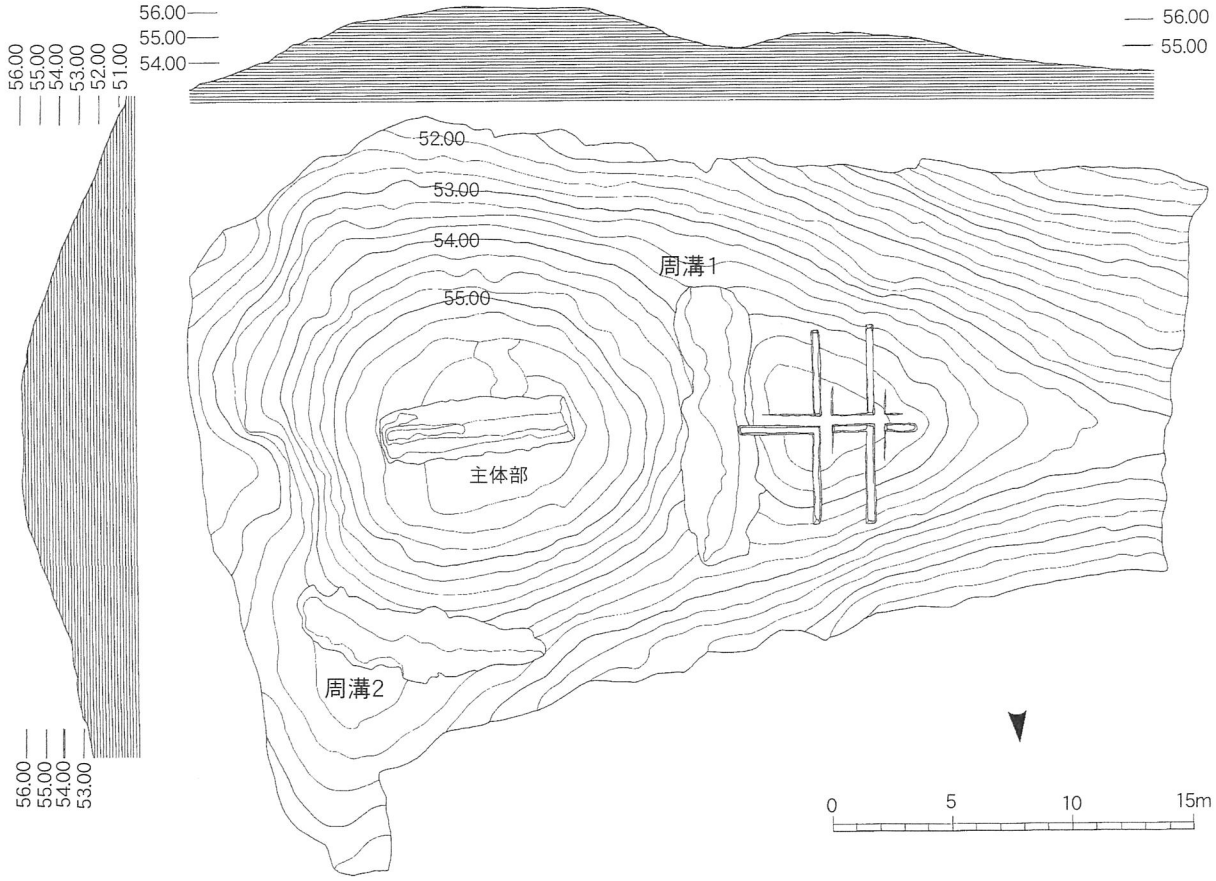
墳丘の南側は特に手を加えず斜面を利用している。墳丘東側の窪みは後世に何らかの削平を受けたものと考えられる。

埋葬施設の構築に当たっては、表土直下の②層から槨掘り方が掘り込まれ、③層（かなり風化の進んだ凝灰岩）まで掘り込まれている。埋葬施設が確認できたのは、墓壙覆土より約0.6m掘り下げたあたりである。

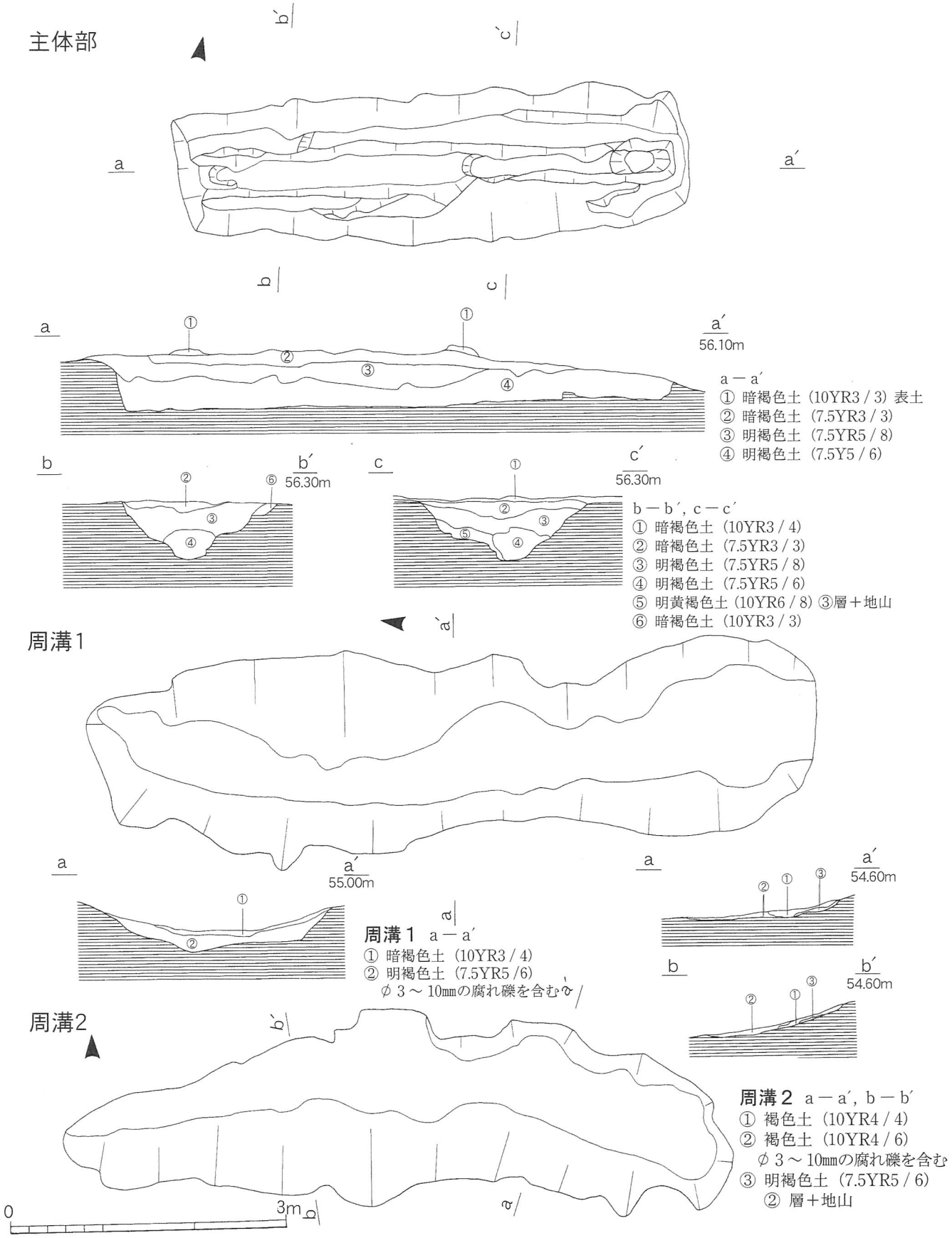
埋葬施設の掘り方は長軸約８m、幅約2.4m、深さ約0.9mである。埋葬施設の主軸方向はN－78°－Eである。槨の大きさは長軸7.5m、短軸0.7mを測る。槨床面の東から約3.3mのところで段差がつき、段差から東側の槨幅が0.6mに満たなくなる。特に槨の長軸が歪むこともなく、槨の床面が弓なりになる。また、東側は若干低くなる。東側より西へ1.5m程のところまでの覆土は西側部分に比べ締まりがなかった。

埋葬施設の形態は、主体部の床面の立ち上がりが丸みを持つことから、おそらく割竹形木棺ではないかと考えられる。

埋葬施設内の覆土については、すべて洗浄したが土器片のほかには特に副葬品は認められなかった。



第３図　検出遺構


主体部
a
a′
b
b′
c
c′
56.10m
56.30m
a－a′
① 暗褐色土（10YR3 / 3）表土
② 暗褐色土（7.5YR3 / 3）
③ 明褐色土（7.5YR5 / 8）
④ 明褐色土（7.5Y5 / 6）
b－b′, c－c′
① 暗褐色土（10YR3 / 4）
② 暗褐色土（7.5YR3 / 3）
③ 明褐色土（7.5YR5 / 8）
④ 明褐色土（7.5YR5 / 6）
⑤ 明黄褐色土（10YR6 / 8）③層＋地山
⑥ 暗褐色土（10YR3 / 3）
周溝1
55.00m
54.60m
周溝1 a－a′
① 暗褐色土（10YR3 / 4）
② 明褐色土（7.5YR5 /6）
φ 3 ～ 10㎜の腐れ礫を含む
周溝2
周溝2 a－a′, b－b′
① 褐色土（10YR4 / 4）
② 褐色土（10YR4 / 6）
φ 3 ～ 10㎜の腐れ礫を含む
③ 明褐色土（7.5YR5 / 6）
② 層＋地山
0
3m

第４図　埋葬施設

（2）礫集積遺構

ａ１号礫集積遺構

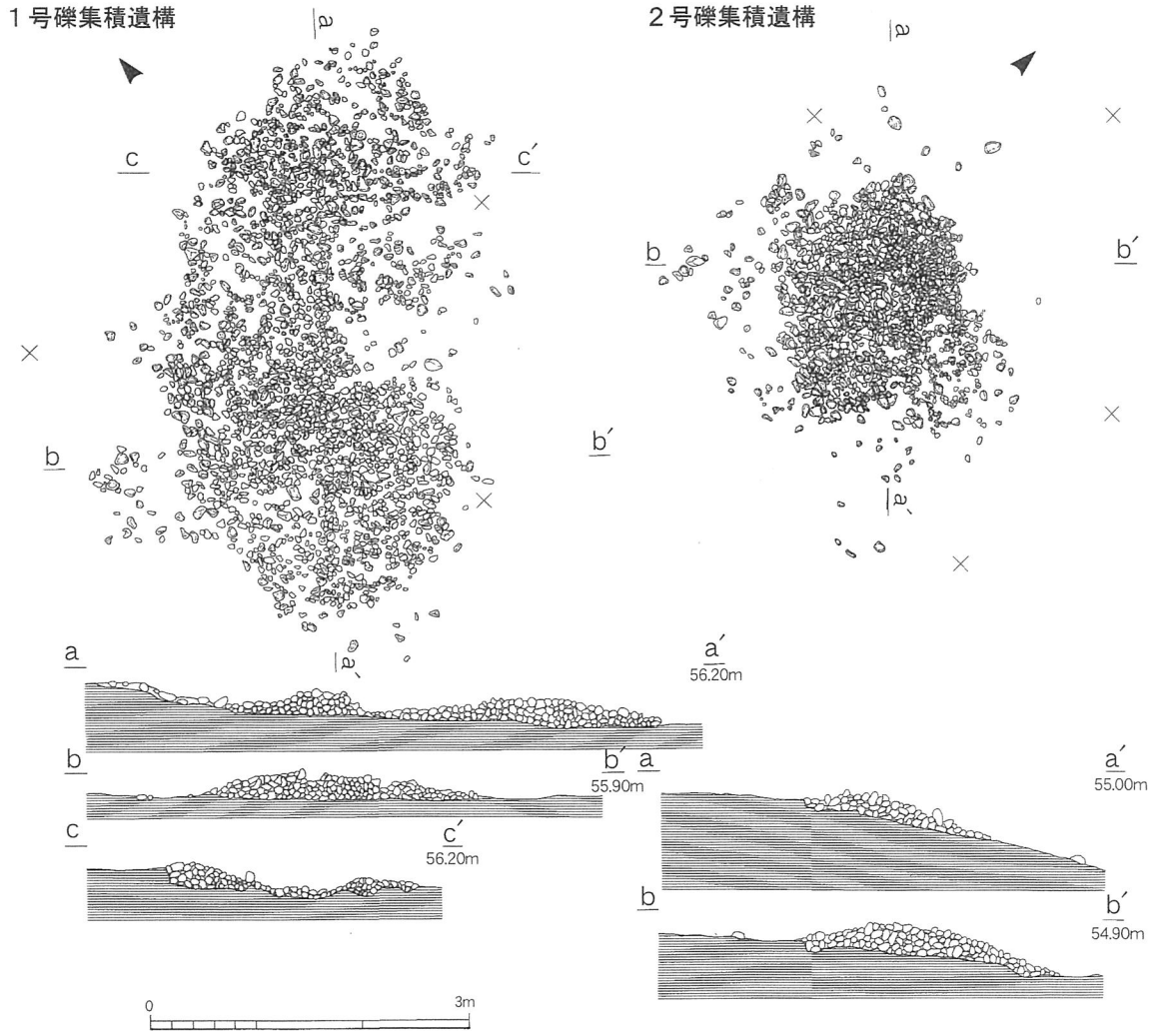
長軸約6.0m、短軸3.5mの楕円形を呈する。高さは約0.25mで中心部分が高く、縁辺部に行くに従い低くなる。周辺には礫が単独で散乱している。集積されている礫は、∅が２㎝程度のものから大きなものでは∅15㎝程である。量的には拳大のものが最も多い。これらの礫は、古墳の西の露頭で確認されている②層や③層に含まれる腐礫とは異なる円礫である。礫中から古銭と石筆が出土した。

また、礫を取り除いた後の地面には特に遺構なども認められなかった。ただし、セクションａ－ａ′とセクションｃ－ｃ′の交差する部分を中心とする直径約0.75m、中心の深さ約0.1mの端正なすり鉢状の窪みが認められた。

ｂ２号礫集積遺構

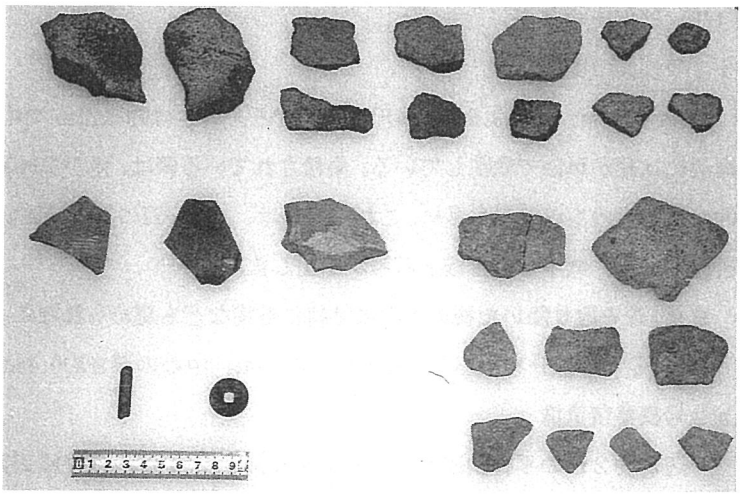
一辺が約２ｍの平行四辺形の形を呈する。高さは約25㎝で、縁辺部へ行くほど礫の量が減り薄くなる。周辺には礫が単独で散乱している。集積に用いられている礫は１号集積遺構と同一産地のもので、大きさも∅２㎝程度から∅15㎝程と酷似している。主体となる礫の大きさは拳大かそれよりやや小さなものである。集積の礫表面には窪みなどは認められなかった。

また、礫を取り除いた後の地面には、窪みあるいは土坑などの遺構は確認できなかった。地面に手を加えず礫を集積したようである。遺物の出土はなかった。



第５図　礫集積遺構

5　出土遺物



１～４の遺物は主体部覆土より出土している。いずれも小破片のため、器種の特定及び口径については明確にできなかった。

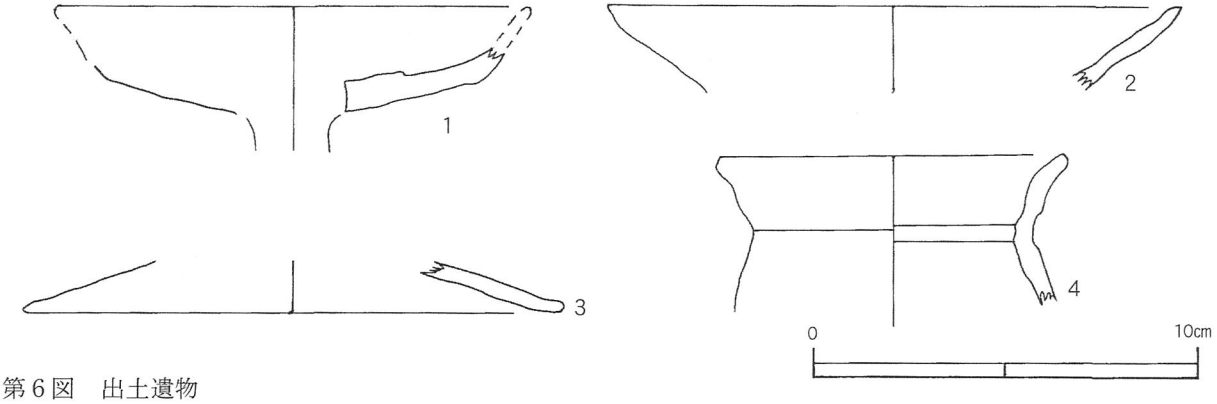
その他の遺物は古墳表面からの採集である。

１は高杯の杯底部。内面の器面は半分以上が剥落し、口縁部は欠損している。

２は高杯の林部で口縁部が長く外反し、口唇部がやや肥大する。

３は高杯あるいは器台の脚裾部分。

４は壺口縁部。



第６図　出土遺物

6　まとめ

主体部覆土より出土した遺物と墳丘の周辺から採集された遺物は同時期のものである。これらの遺物が古墳に伴うかどうかについては明らかではないが、遺物の年代と古墳の形態から、おそらく古墳は４世紀後半から５世紀前半に構築されたものであろう。

礫集積遺構については、用いられていた礫が古墳の西側の露頭で確認された礫とは異なることから、わざわざ尾根筋まで運び積み上げた可能性もあるが、以前は畑が近くまであったことや尾根の東側と西側では土層が異なる可能性もあり、近代に入ってからの遺構である可能性も捨て切れないと考えられる。　（稲垣）

調査終了の様子

図版１

１．墳　　丘
（北から）

２．埋葬施設
（東から）

３．埋葬施設
（西から）

図版２

１．埋葬施設
（西から）

２．１号礫集積遺構
（北から）

３．２号礫集積遺構
（南から）

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧
1997年度

平成10年３月31日発行

編集・発行　小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939－0393 TEL (0766)56－1511

印　　刷　島　木　印　刷